

## 第8回情報システム学会 全国大会・研究発表大会 開催報告

大会実行委員長 石井 信明（文教大学）

第8回情報システム学会全国大会・研究発表大会が、2012年12月1日（土）に、文教大学湘南キャンパス（神奈川県茅ヶ崎市）にて、「安心・安全を担う情報システムのあり方を探る」というテーマで開催されました。38件の研究発表があり、大会参加者は204名でした。（特別講演のみ参加者を含む。）研究発表件数は、今年の大会と比べてほぼ同数ですが、参加者数は増加しました。

今年は、特別講演を2名の講師の方にお願ひしました。

最初の講演では、アイジョッキー 中島誠一様に、「ラジオが担う安心安全の最新状況と今後の役割 ～震災時のラジオの役割を中心として～」と題してご講演を頂きました。とかく忘れられがちなラジオが社会における基本的なメディアとして果たしている重要な役割を、ご自身の経験も交えてお話しいただきました。とくに、今年の3・11においてラジオが災害において果たした役割を、写真、音声などを用いて紹介をして頂き、大変参考となる講演でした。

次に、情報処理推進機構情報セキュリティ技術ラボラトリー ラボラトリー長 小林偉昭様に、「身近になった制御システムのセキュリティ」と題して、ご講演を頂きました。ご講演では、組込みソフトウェアを主要要素とする制御システムのセキュリティに関する現状、IPAを含む内外諸機関の取り組みに関する最新の話題を紹介して頂きました。

どちらの講演にも参加者は大きな感銘を受けました。今後の情報システム学の研究、実践に大いに役立つことと考えています。なおこれら講演については、後日、学会からその概要をご報告する予定です。

懇親会は大会当日の夕方に、文教大学湘南キャンパス内の食堂にて行われました。交通の便が悪いせいか、昨年参加者より少ない44名の名の参加となりましたが、参加者一同、活発に情報交換を行い、大いに盛り上がりました。

12月の開催でもあり、参加者の減少が危惧されましたが、結果的には、多くの貴重なご研究について、今年の大会に準じた数の発表の場を提供できました。また、7社に上る企業からの協賛を得ることもでき、収支の面でも学会に迷惑をかけずに済みました。これらはひとえに、大会参加者の皆様、学会関係者の皆様の「情報システム学」への熱い思いによるものであると考えます。大会実行委員会メンバー一同、喜びに感じるとともに、ホットしているところです。

大会の運営について、至らないところが多々あったと存じます。次回以降の全国大会・研究発表大会をより充実したものにするため、忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。